

<p>1 学校教育目標</p> <p>豊かな心で 勸興魂の実現をめざす 子どもの育成 勸興魂～勉強はベストをつくり、運動はくたくたになるまで～</p>	<p>2 本年度の重点目標</p> <p>①学力向上の推進 ○分かる授業の実践 ○基礎・基本の定着 ○指導方法・形態の工夫改善 ○課題解決型学習の推進 ○体験活動の充実 ○学習規律の確立 ○家庭学習の充実</p> <p>②豊かなこころの育成 ○基本的生活習慣の確立 ※凡事徹底(あいさつ、くつ・スリッパ揃え、整理整頓) ○支持的風土にもとづく学級経営 ○道徳の時間と体験活動を関連付けた授業の実施 ○ボランティア活動の推進</p> <p>③特別支援教育の充実 ○個に応じた指導の充実 ○「自己存在感」の醸成 ○「自己有用感」の醸成 ○自他尊重の精神の育成 ○特別支援学級の活用 ○通級指導教室の活用</p>
--	--

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価				
① 学力向上の推進				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○教職員の資質向上	・学級・学年経営力、授業力の向上	ア学級経営案並びに複数担任経営案を立てる。 イ全ての教職員が年1回以上、指導案に基づいた研究授業・公開授業を行い、個々の授業力及び学校全体の教育力を高める。	アPTA総会までに学級経営案及び複数担任経営案をもとに、各学級各学年の1年間の指導方針を確認する。 イ校内研修の年間計画に全職員の研究授業を位置づけ公開授業として実践する。
教育活動	●志を高める教育	・夢や目標を描く教育の推進	ア地域の偉人について学んだり、地域の人材について学んだりする時間の充実をはかる。 イキャリア教育を意図した学習活動を学期に1回仕組む。	ア『勸興読本』を活用して七賢人の生き方について学び、自分自身の夢や目標について考える学習を行う。 ア地域の人々が地域のために精力的に活動していることを学び、自分の夢や目標に向かって努力する大切さを体験的に学ぶ授業を行う。 イキッズマートの取組を全校に広報し、各学年で活動を振り返る機会を設ける。
教育活動	●学力の向上	・基礎・基本となる学力の定着及び思考力・表現力の向上	ア全国並びに県の学習状況調査で明らかになった課題の解決を図り、前年度の結果を上回る。 イ体育科と算数科を中心に思考力・表現力を高める。 ウ学校図書館の貸出を低・中学年共に130冊以上、高学年100冊以上と定めて、昨年の貸出数を上回る児童が80%以上になるようにする。	ア研究主任、副主任と教科等の主任を中心に課題分析にあたり、具体的な指導改善を策定し、実践化を行う。 ア月曜日の朝、4年生以上に「すくすくテスト」を行い、火曜日の放課後「すくすくタイム」で基礎・基本の補充指導を行う。 ア金曜日の朝の時間にチャレンジタイムを設け、算数科における基礎・基本の定着を図る。 イ学習カードやノート指導、発問・板書計画について、指導・実践を継続し、定着へと結び付けていく。 ウ図書館の利用を位置づけたり、読み聞かせの機会を設けたり、学期毎に多読者を紹介する。
教育活動	○学校連携	・小中連携教育の推進 ・幼保小連携の強化	ア小中三校の連携会議を年3回以上実施し、児童の中学校進学に対する不安を解消する。 イ参観や連携会議など、幼稚園や保育園との情報交換を年3回行い連携を深める。	ア成章中、神野小との合同授業研、出前授業等や夏休みに子ども向けワークショップを開催し、教師間・子ども間の連携を図る。 イ学期毎に小学校と校区内の幼保との連携会議を開催する。 イ新1年生の学級編制に、幼保からの情報を活用する。
教育活動	○小学校低学年の学習環境の改善充実	・基本的な生活習慣の定着 ・学力向上 ・学習習慣と基礎・基本の定着	ア立腰タイムを行い集中力を高めると共に、学校生活のきまりや学習のきまりを定着させる。 イ国語科・算数科における基礎・基本の定着を図る。	ア目標が達成できている児童を称賛し、他の児童の実践意欲を高める。 イ国語科や算数科の基礎・基本的なスキルを向上させるため、指導方法を工夫・改善する。 イ授業の終末や小單元ごとに小テストを行うなどして、基礎的・基本的学習内容の理解の様子を確かめる。 アつまづきが見られる児童には個別に指導を行う。

② 豊かな心の育成と特別支援教育の充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	・道徳教育の充実 ・人権・同和教育の充実 ・異年齢集団による活動の深化	ア道徳の時間の充実や体験活動・ボランティア活動等への取り組みを通して、豊かな心を育む。 イ地域や保護者の方に道徳の授業を公開する。 ウ立ち止まって気持ちのよいあいさつができる子どもを80%以上とする。 エ異年齢集団活動「はと活動」で、互いを思いやる気持ちを育む。	ア年間計画に基づいて授業実践し、年間計画の改善を行う。 イ地域や学校で行う体験活動と道徳の時間との関連を図った授業を行う。 イ授業参観やフリー参観デーの時に、「ふれあい道徳」の授業を年1回以上公開する。 ウ立ち止まって、元気よく挨拶を行うという視点であいさつ運動を進める。 エひびきあいタイムの計画的運用を行う。 エ共遊の時間において、児童が振り返る時間を確保し、活動を振り返らせる。
教育活動	●いじめの問題への対応	・いじめ防止等の体制の構築 ・いじめに対する共通理解と取り組むための共通認識の獲得 ・いじめの未然防止 ・いじめの早期発見 ・いじめに対する早期対応	アいじめ事案の未然防止のためにアンケート調査や外部専門機関と連携を深める。 イ「いじめ・命を考える日(毎月1日)」を中心に据えて、児童の人権意識を高める。 ウ「いじめ問題」に関する校内研修を行い、職員の人権意識を高め、実践力をつける。	ア「いじめ防止対策委員会」などを随時開催していじめ事案の可能性のあるものとして慎重に協議を行う。 ア毎月1回いじめ・いのちアンケートを実施し、担任、管理職が目を通し、記述内容に応じて児童や保護者への聞き取りを行い、いじめの早期発見・早期対応に努める。 イ全校朝会や学年朝会等で、「いじめ問題」に関する指導を行う。 イ毎週木曜日に情報交換会を行い、児童について共通理解する時間を設定する。 ウQUテストを実施し、児童や学級の様子を把握する。
教育活動	○特別支援教育	・個別支援が必要な児童への支援体制の確立 ・特別支援教育の充実	ア支援を要する全ての児童の個別の支援計画を作成する。 イ職員間で積極的に情報交換を行い、支援の方法を探る。 ウ教職員全員が、特別支援教育に関する知識を身につけ、適切な対応について共通理解する。 エ児童・保護者に対して啓発を行う。	ア特別な支援を要する児童の個別の支援計画を作成し、木曜日の情報交換会の時間に記入したり、情報を共有したりする。 イ校内教育支援委員会を必要に応じて開催する。 ウ特別支援教育の研修会を年間を通して計画的に位置付け、最新の情報を得たり、適切な対応について共通理解したりする。 エ「ふれあい給食」や「カレンダー作り」、「勸興ゆうびん局」等を通して児童に啓発を行う。 エ特別支援教育の推進のために、PTA総会や新入学説明会等で説明をしたり便りを保護者に配布したりして、保護者への啓発に努める。

③ 地域に開かれた学校づくりの推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・校務の効率化	ア定例の業務を効率的に行う。 イ校務の整理や役割分担を明確にして、行事の精選に取り組む。	アデータの整理を行い、業務をデータで引き継ぐと共に、課題や改善点を明確にすることができるようにする。 ア電子掲示板を活用し、情報共有の効率化をはかる。 イ部長を中心に、行事を1つ精選することを念頭において行事の整理や役割分担の見直しを行う。
学校運営	○学校経営方針	・学校教育目標および経営ビジョンの周知	・保護者の周知率を95%、児童の周知率を85%とする。	・学校だより、ホームページ、PTA総会、学級懇談会、地域ふれあい協議会などを通じて保護者や地域に知らせる。 ・「勸興魂」の合言葉と、「あいさつ、ありがとう、安全」の意識を高めるように全校朝会等で児童への周知・定着を図る。
教育活動	○開かれた学校づくり	・地域社会、保護者との連携	・行事の共催を通して相互交流を密にする。 ・各学年で少なくとも1単元は地域に密着した総合的な学習の時間や、地域教材・地域人材を活用した活動を実践する。	・学校と地域合同のふれあい運動会を開催する。 ・勸興まつりや公民館との合同行事を推進する。 ・総合的な学習の時間では、年間の指導について詳細な計画のもと地域学習の展開を図る。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	・運動に親しむ習慣の育成 ・望ましい食習慣の育成	ア毎日進んで体を動かそうとする児童を育てる。 イ朝食をとって登校する児童の割合を90%以上とする。	ア月に1回程のペースで「勸興体操」を行う。 ア運動委員会を中心に行う全校遊びを実施したり、体づくり運動を狙った外遊びを奨励する。 イ「保健便り」や「給食便り」等を通して早寝・早起き・朝ご飯の啓発を進める。 イ学校栄養職員や養護教諭との連携を図り、学級活動や教科指導などで食の大切さや健康についての意識向上を図る。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目